

新型コロナウイルス 私たちの対応

新型コロナウイルス感染が日本でも拡大を始めた2月末、パルシクでも予定していた集会を中止、事務所は海外の事業地を含めテレワークへ移行しました。1年とも2年ともいわれるワクチンが開発されるまでの間、私たちは、どの国でも手洗いとフィジカルディスタンスを基本としてオンライン上にコミュニケーションを構築することになります。このことは単に「感染症」という医療の問題にとどまらない、社会の大きな変化を意味しており、これによって起きる変化は元には戻らないでしょう。オンラインがコミュニケーションの唯一の方法となると地理的な距離は意味がなくなり世界のどこの人たちとも気楽に連絡を取り合えるというプラスもあります。他方、パルシクの事業地のおばちゃん、おじちゃんたちはそもそもオンライン・コミュニケーションから排除されています。各種の生産活動、宅配便などの実態としての労働がオンライン社会を支えていることはいままでもありません。人と直接会って、美味しいものを一緒に食べながら、肩をたたきあう関係をどうやってオンラインで築けるのか？ 国境を越えて人との信頼を大事に思うパルシクにとって新たなチャレンジとなります。

葛飾 休校中の子どもたちにお弁当

新型コロナウイルスは人びとの普段の暮らしを一変させました。2020年2月後半から、パルシクが葛飾区で運営するみんかふえ子ども食堂は休止したものの、カフェや子どもたちの居場所提供はその後も続けました。しかし状況は日々悪化の一途を辿り、小中高等学校の休校やその後の緊急事態宣言発令。活動を制限せざるをえず、その結果、子どもたちや親御さんたちとの触れ合いを狭めていきました。学校休校決定後「仕事がなくなり途方に暮れている」、「カップラーメンでお昼を凌いでいる」などの声を聞き、「学校には行けずともせて給食っぽいお昼ご飯を提供したい!」との思いで、間もなく給食代わりのお昼のお弁当



「今日も元気なの?」と確認しつつお弁当を配布



普段の営業ができなくなった近所の飲食店がつくってくれるお弁当を配布



家で読めるよう配布した子ども新聞に食い入って読んでいた、とのこと報告

(牛乳付き) 配食を開始しました。保育園への通園も基本的に停止され、在宅勤務が推奨されてからは、小さいお子さんのお母さんが目に涙を浮かべながら「子どものお顔を泣きながら仕事は出来ない」と吐露されました。これは大変な状況だと気づき、お弁当の配食数を増やしました。この状況がいつまで続くのか誰も分からない中、こんな時だからこそ「連帯」、「寄り添い」、「ユーモア」の気持ちを大人が意識して持つことは、子どもたちにも良い影響となるとお弁当を配りながら日々感じています。(大坂智美)

(この事業は、赤い羽根福祉基金、ゴールドマン・サックス基金と皆さまからのご寄付で実施しています。)

目次	新型コロナウイルス 私たちの対応/葛飾 休校中の子どもたちにお弁当…… 1
	シリア難民 シリア国内避難民への新型コロナの影響/どんな時子どもたちへ教育を/パレスチナ さらなる自由の制限…… 2
	東ティモール 新型コロナ水際対策に成功/インドネシア 新型コロナ感染拡大下での活動…… 3
	パルシクの民際協力とフェアトレード…… 4-5

	フェアトレード 紅茶の産地スリランカ 記録的な干ばつに見舞われたデニヤヤ/ちょっと寄り道! コーヒー焙煎屋さんからの便り/コカマウ組合のコーヒーで繋がるオンライン座談会…… 6
	パルシクのフェアトレード商品/ひんやり美味しく♪ お家で快適夏レシピのご提案…… 7
	パルシクからのお知らせ…… 8

シリア国内避難民への新型コロナウイルスの影響

シリア北西部での反体制派と政府軍の戦闘激化により、2019年12月以降、約96万人が国内避難民となり、その多くがキャンプ地でテント生活を強いられています。5月1日現在、シリア国内では約40人の新型コロナウイルス感染者が確認されており、長期の紛争により医療体制が整っていないなか、感染拡大のリスクが高まっています。また、感染防止対策の外出禁止令により、国内避難民の多くは、収入の道が閉ざされ、国連やNGOの支援に頼って何とか生活している状態です。パルシックは、5月から緊急の

食糧と衛生用品の配布を行う予定です。食糧不足で免疫も下がっている人びとが、少しでも栄養をつけ、清潔な環境を保つことで、厳しいコロナ禍を生き抜くための役に立てればと思っています。



学校の校庭に建てられたテントで遊ぶ子どもたち

（大野木）

どんな時も子どもたちに教育を

レバノンで私たちが支援する教育センターも、新型コロナウイルスの感染防止策として2月末から閉鎖したままです。



「今まで何もすることがなくて悲しかったけど、今は勉強できて嬉しいよ。」

日本の子どもたちは、家でテレビやパソコン、オンライン学習など、様々な方法で勉強することができ、シリア難民の家には、電化製品も教材も、文房具すら、ほとんどありません。そこで、センターの先生たちがお手製の課題を作成し、キャンプを回って配ることにしました。センターに通っていた390人の子どもたちが、課題と文房具、ファイルなどを受け取りました。子どもたちは家で課題を解き、先生たちが週ごとに回収、採点をしています。分からないことは、課題用紙に質問を書くか、親に電話を借りて質問すると、先生が答えてくれます。どんな時も子どもたちが安心して学べるよう、私たちは遠隔による教育支援を続けています。

（これらの事業は、ジャバン・プラットフォームの助成と皆さまからの寄付で実施しています。）

パレスチナ さらなる自由の制限

ヨルダン川西岸地区では3月上旬にベツレヘムで最初の感染が確認され、瞬間に全都市が封鎖状態となりました。感染拡大前から厳しい入国規制をしていたイスラエルも、国内対策の遅れから3月末より感染者が急増し、西岸地区とイスラエル・エルサレム間の行き来を管理する検問所が封鎖されました。経済活動をイスラエルに大きく依存するパレスチナでは、イスラエルや入植地で働くパレスチナ人出稼ぎ労働者が感染経路となるケースもありました。

移動規制開始当初、外出は緊急時や食糧調達時のみ、経済活動もライフライン従事者や報道関係者に限定されました。



ラマッラー市の通りを消毒する消防車

断食月（ラマダン）の始まりとともに生活は元に戻りつつありますが、商店からは欧米の輸入品が消え、イスラエル産、パレスチナ産商品ばかりが並んでいます。軍事封鎖下のガザ地区では、感染者が確認される以前から感染拡大に備えた医療キットや検疫所の設営が国際機関を通じて行われました。移動制限の強化により、もともと脆弱な経済がさらに不安定となり、貧困世帯で一般的な食料品・日用品の「つけ払い」が商店で断られ、生活必需品の購入ができず困窮する世帯も少なくありません。当初、感染拡大は緩やかでしたが、ラマダン中の帰省者を介して感染者が増え始めており、第二波への警戒も含め、西岸・ガザ地区ともにまだまだ気の抜けない状況です。

人びとの声

バハー・ジャラーさん
（西岸地区・北アシーラ村）

北アシーラ村は入植地や軍の駐屯地が近いので、検問封鎖とともに村の近くで軍用車や兵士を頻繁に見るようになりました。外出規制で仕事にも行けず、家族11人を養うのは簡単ではありません。しかし、家族、友人、隣人との関係を見直す機会となり、自分にとって大切なことは何かを考える期間となりました。久しぶりに外出すると、いつもなら見逃してしまう自然の美しさに目を奪われてしまいます。この見えないウイルスは、人びとが多くの違いを持ちながらも、共存していることを明らかにしたと思います。

（関口、盛田）

（パレスチナでの事業は、日本NGO連携無償資金協力、地球環境基金、緑の募金、連合愛のカンパからの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

東ティモール 新型コロナ水際対策に成功

3月13日午後4時過ぎから降り始めた局地的な大雨により、デイリ市内で4つの河川が氾濫、4681世帯が浸水、うち90世帯あまりが家屋破損の被害に遭いました。続く3月21日、復旧作業に追われるなか、東ティモールで最初の新型コロナウイルス感染者1名が確認され、3月28日には非常事態宣言が発令されました。デイリと国外を結ぶ空の便は3月29日をもって全便欠航となり、島の西半分インドネシア領との国境も4月13日には物資の移動のみに制限されました。

と書くとは混乱状態のような印象を与えますが、東ティモールはこのコロナ禍をもっとも落ち着いて乗り切りつつある国の一つかもしれません。過去2年半に亘って続いている政治的膠着をひとまず脇



スーパーの前の手洗い所、入店時はマスク着用

に置き、政府は元保健大臣2名と現職の保健官僚の計3名を報道官に立てた危機管理統合センターを素早く設置し、世界保健機構などの国際機関のサポートを得ながら徹底した水際対策を指揮しました。その内容や結果は毎日午後3時の記者会見で全国民に分かりやすく説明され、5月12日現在、水際対策で隔離された人を中心に24名の感染が確認されましたが、全員が軽症、死者は出ていません。目に見えないものを恐れ、理屈ではなくハートで物事を理解する東ティモールの人びとにとつて、新型コロナウイルスは一人が感染したら全員死んでしまうくらいの怖ろしい病気でしたが、今では「手洗いとマスクと社会的距離で防げる病気」に変化したように思います。どんなに小さなキオスクや路上の焼き鳥売りでも、手洗いの水と石鹸を用意して手洗い励行が浸透し、外出時には色とりどりの手縫いのマスクで楽しむ余裕すら見られます。もうすぐ東ティモールではコーヒーの収穫期を迎えますが、このコロナ禍がコーヒーの市場にどのような影響を与えるのかは大きく関心のもたれるところです。

(伊藤淳子)

(東ティモールでの事業は、日本NGO連携無償資金協力、JICA草の根技術協力事業、ジャパン・プラットフォーム、日本国際協力財団の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

インドネシア 新型コロナ感染拡大下での活動

2020年3月2日にインドネシア初の感染者が確認されてから、都市部及び地方への感染が止まることなく拡大しています。5月8日現在、インドネシア全土で12,776名の感染者及び930名の死亡。事業地のある中部スラウェシ州では、75名の感染者及び3名の死亡が確認されています。事業地においては3月16日に州知事による外出自粛要請が出され、集まりも実質禁止となりました。

これを受けて、子どもの居場所活動と、実施予定だった女性対象の勉強会が中断となりましたが、事態が収束するまで待ち続けることはできません。手始めに新

人びとの声

カルスムさん(シギ県ナモ村)



末っ子のシユ克蘭と。上の子2人は子ども居場所活動に参加している。

私たちの村では、新型コロナウイルスの感染者はまだ出ていませんが、生活は変わってしまいました。特に断食月である今、その変化を感じます。断食明けの礼拝は、ずっとモスクにみんなが集まって行っていたのに、今はそれが許されません。私は氷菓子を売っていますが、氷を食べると咳やくしゃみがでるので、あまり売れなくなりました。私が風邪を引いた時には、家族がパニックになってしまいました。風邪を引くことはよくあることなんですけどね。



シギ県カラワナ村の子どもたちが手洗いの練習をしている様子

型コロナウイルスの基礎情報や感染防止策、相談連絡先等を記載した小冊子を作成し、4月上旬にはこの小冊子を添えて子どもたちと女性ら合計605名に衛生用品(石鹸、タオル)を配布しました。配布時には正しい手洗いの仕方も指導しました。

子どもの居場所活動では、子どもたちの様子を定期的に電話で確認し、山間部に住む子どもたちには自宅で遊べるようクレヨンを配布しました。女性の生計支援活動では、勉強会の講義動画を作成し、各女性のスマートフォンに配信し、電話でのフォローアップを始めました。試行錯誤ではありますが、この状況下で出来る限りのことをサポートしていこうと日々奮闘しています。

(飯田彰、松村多悠子)

(インドネシアでの事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

パルシクの民際協力とフェアトレード

パルシクの民際協力活動は、外国の占領や侵略、紛争、自然災害によって自立的な発展を阻まれた人びとが、暮らしを取り戻すことへの支援を重視しています。活動を通じてできあがった商品は、フェアトレード商品として販売し、生産者の暮らしを守ります。



レバノン (→ p.2)

シリア難民の子どもたちへの教育支援と食糧支援を行っています。

シリア (→ p.2)

2020年3月までシリア国内の3か所で、国内避難民やパレスチナ難民への食糧支援を行ってきました。4月からは、農業と養鶏による食糧生産の支援を開始しています。



マレーシア

- ベナン州でマングローブの植林活動と環境教育に取り組む漁民グループ(PIFWA)の活動を支援しています。
- 2015年から、日本の高校生や大学生が現地で環境教育や多文化社会を体感しながら学ぶ「民際教育」にも力を入れています。2020年度は新型コロナウイルスの影響で、夏に予定していたプログラムは中止および延期になりました。



パレスチナ(ガザ、西岸) (→ p.2)

- ガザ地区南部の農村では、数世帯でグループを作り共同で羊を飼育し、生乳やチーズを販売することによる女性たちの生計支援を行っています。
- 西岸地区ナブルス県では、耕作放棄地への植樹による地域の環境保全事業と、ゴミ分別を通して地域住民の環境意識を醸成し、生ごみの堆肥化、資源ごみのリサイクルとリユースを促進する循環型社会のモデル形成事業を実施しています。



スリランカ

- 北部ジャフナ県とムライティブ県の漁村の女性たちがサリリサイクル製品を縫製しています。また、ジャフナでゲストハウスを運営し、タミル文化を紹介するツアーなど実施しています。
- 南部デニヤヤでは、紅茶の有機転換支援のほか、シンハラージャ森林保護区訪問などのエコツアーを企画実施しています。
- ★ 北部、南部とも、2020年4月末現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出禁止令が出され、ツアーの実施を停止しています。

居場所づくり：みんかふえ(葛飾区) (→ p.1)



東京
フェアトレード (→ p.6-7)



広報 (→ p.8)



インドネシア (→ p.3)

スラウェシ地震津波被災者支援



東ティモール (→ p.3)

有機コーヒーやハーブティーの生産者支援のほか、ふりかけ事業、アグロフォレストリー事業を実施しています。



記録的な干ばつに見舞われたデニヤヤ

スリランカ南部は2020年1月中旬から3月末まで、50年に一度という記録的な干ばつに見舞われました。アールグレイ紅茶の産地、デニヤヤの有機紅茶小規模農家グループ（エクサ）の生茶葉の収穫量にも影響が出ていて、2月と3月は2019年の同時期の50%まで低下しました。

ただし、化学肥料を使用している茶畑では多くの茶木が枯れて回復が困難なほどの被害が出ましたが、エクサの有機圃場では乾燥で落葉する茶木がいくらか出ただけでした。同地域で2017年に発生した土砂災害の際も、有機茶畑が非有機茶畑に比べ保水力など土壌の力が優れており、自然災害に強いことが確認されています。今回の干ばつを経て、有機農業に取り組むことで自然災害に強い土壌を育てたと、エクサのメンバーはさらに自信を強めました。

また、2019年後半から始めたメンバーによる有機野菜や果物の販売は周辺地域の人たちから非常に好評で、茶の不作によるメンバーの収入低下の影響を緩和しました。しかし、新型コロナウイルスの感染者の増加に伴い、3月前半から販売を一時中止しています。3月20日にスリランカ全土に厳しい外出禁止令が出されました。5月10日現在、外出禁止令は解除されていますが、安全を考慮して販売再開はまだ見合わせています。

なお、茶栽培を含む農業など一部は外出禁止令の中でも事業継続が許されたので、茶の生産には新型コロナウイルスの影響は出ていません。
(紅茶事業担当 高橋知里)

紅茶の産地から
Tea/スリランカ



干ばつのため、土壌が乾燥し茶木が枯れてしまった非有機茶畑



有機野菜と果物（左上から時計回りでサワーサップ、バナナ、バナナの花、カンクン、チリ）

ちよつと寄り道か
コーヒー焙煎屋
さんからの
便り

富山市に2019年4月にオープンしたコーヒー専門店 Good Enough Coffee Toyama です。「ここに全てある」がコンセプトです。都会の最新カフェに行かなくてもここに行けば全てがあるという状態を目指しています。扱っているコーヒーの多くはスペシャルティコーヒーで、数種類だけフェアトレードコーヒーを扱っています。その一つが東ティモール。以前は多くの種類のフェアトレードを扱っていましたが、フェアトレードについて考えるにつれ確実に信頼できる供給元に絞ろうと考えるようになりました。以前パルシックさんのご案内で東ティモールを訪れたこともあり、パルシックの皆さんとその活動に信頼を寄せています。当店では東ティモールのコーヒーの他、アロマティモールのハーブティーやスリランカの紅茶も扱っています。現在は新型コロナウイルスに対してコーヒー業界が出来る事として地域の医療・介護・福祉施設に対してコーヒーの無料提供も行っています。

店主 尾塩 周さん

Good Enough
Coffee Toyama
グッドイナフ
コーヒートヤマ



富山県富山市藤木2710
TEL 076-492-0101

メール：gec.toyama@gmail.com
website：https://gectoyama.com/

営業時間：11:00-16:00
定休日：不定休

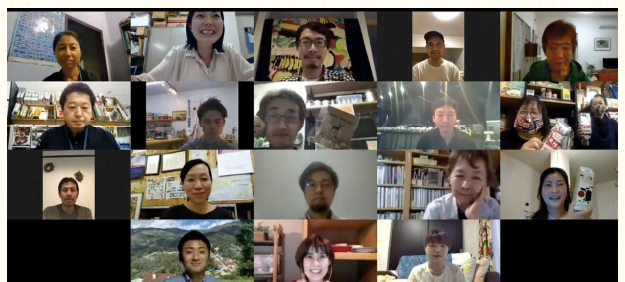
緊急開催！

ココマウ組合のコーヒーで繋がる
オンライン座談会

～COVID-19が与える影響と私たちができること～

2020年5月15日に日本でココマウのコーヒーを取り扱っている焙煎屋さんとオンライン座談会を開催しました。東ティモールにおける新型コロナウイルスへの対応、コーヒーの生産体制に与える影響について、東ティモール事務所代表の伊藤が報告をした後、参加した方々から活発に意見をいただきました。オンライン・ツールを使うことで、東ティモールと日本をつないで、ポストコロナの時代のフェアトレードについて貴重な意見交換をすることができました。今回は試みとして実施しましたが、今後もっと広げて実施していきたいと考えています。

当日の参加者



パルシクの フェアトレード商品

*価格は税込です



オンラインショップ Parmarche が
新しくなりました！

2020年3月17日に、これまでのサイトからコンテンツも機能も充実してリニューアルをいたしました。商品のストーリーを伝えるコンテンツ、楽天ペイ決済の導入など、より楽しくお買い物していただきやすいオンラインショップになりました。ぜひ、ご利用ください♪
<https://parmarche.com>

カフェ・ティモール

豆/粉	各200g	各756円
ドリップタイプ	10g×10個	864円
リキッドコーヒー	1L	702円



パッケージが
新しくなりました！



コーヒーゼリー
価格改定 313円



アロマ・ティモール

ツボクサ&ミント	各30g	各756円
月桃		
レモングラス		
アボカドリーフ&ライムリーフ	20g	
ハイビスカス		



アールグレイ紅茶/ ルフナ紅茶/ウバ紅茶

ティーバッグ	2g × 25p	各756円
リーフ	100g	



リサイクルサリー

エコバッグ	660円
シュシュ	374円
ヘアバンド	770円



アールグレイ紅茶 ワッフル

2個セット 389円



アールグレイ紅茶 羊羹

200g	864円
ミニ 80g	302円



ひんやり
美味しく♪
お家で快適
夏レシピの
ご提案

アールグレイ紅茶シロップの炭酸割り

- ①紅茶を濃い目につくる(1杯分の熱湯に茶葉30g)。
- ②水あめで溶いて「シロップ」にする。
(水あめ2：紅茶8)
- ③水を入れたグラスに「シロップ」を少々注ぎ、炭酸水で割る。



レモン汁、塩を
ひとつまみ入れて
夏バテの予防にも
一役！

コロナ禍で
影響を受けている
牛乳の消費にも
貢献 ^^♪



氷コーヒー

- ①カフェ・ティモール(リキッドコーヒー)を製氷機に入れて、コーヒー氷をつくる(お好みでガムシロップを混ぜても)。
- ②できた氷にたっぷりの牛乳を注ぐ。



栃木県での台風19号被災者支援を終了しました

2019年10月12日に台風19号が東日本と北日本を直撃し、1都12県で川の氾濫や洪水を引き起こし、各地で甚大な被害が出ました。パルシックは、10月末から床上・床下浸水による被災件数の多かった栃木県栃木市と佐野市を対象に、被災者支援を行いました。被災後すぐに家屋の片付けが急速に進められた一方で、その後の床や畳の張替などの補修工事が始められるまでには時間がかかったため、床上浸水被災者の多くは、1階の床がはがされて冷気が浸透する家屋で寒い冬を過ごすなければならなくなりました。そこで、パルシックは、2020年3月31日まで、佐野市役所や栃木市社会福祉協議会、栃木市市民活動推進センター「くらら」と連携して、暖房器具や防寒具の配布と、皆さんがほっと一息をつけるサロンの運営を行いました。

現地の機関と連携をする中で、「浸水被害の片付けをできないまま寒い中我慢して布団の中で震えている高齢者の方が見つかった」という声も聞こえてきました。そうした声をあげられない在宅被災者の方々の状況やニーズの把握は難しく、災害支援時の大きな課題です。



一輪車と土嚢袋を栃木市災害ボランティアセンターに提供

東京事務所イベント報告(2020年1月~5月)

主催イベントも新型コロナウイルスによる開催自粛の影響で、3月に予定していた3つの集会在延期となり、5月からはzoomを使ったオンライン集会へと切り替えました。今後も状況をみながら、オンライン、オフラインを組み合わせ開催してまいります。

主催イベント

1月15日	シリア難民・シリア内戦の今 —難民支援の現場から—@連合会館
3月3日	【開催延期】ともに支えあう地域づくりを目指す 子ども食堂
3月7日	【開催延期】アジア現代史講座 映画上映会 Vol.3 「共犯者たち」
3月28日	【開催延期】アジア現代史講座 映画上映会 Vol.4 「スパイネーション/自白」
5月16日	COVID-19: ロックダウン下のレバノンの今 オンライン集会 @zoom
5月23日	東ティモール独立18周年記念 エゴ・レモス ～Stay homeの今、東ティモールから届けたい 歌声～ @zoom
5月25日	葛飾子ども食堂「みんなかふえ」の現場から～新型 コロナウイルス感染社会、私たちにできること～ @zoom

2020年度スタディツアー開催見合わせ

毎年開催していた東ティモール・スリランカ・マレーシアなどへのスタディ・ツアーは2020年度は開催のめどが立っておりません。しばらくは海外渡航が難しい状況が続くことが予想されますので、ツアーに代わってオンラインで実施できるプランなどを考えていきます。

パルシック初の試み zoomでのオンライン集会!

新型コロナウイルスの影響でイベントの開催が徐々に自粛される中、4月の緊急事態宣言以降はパルシックもオンライン集会の準備を急ピッチで始めました。5月にレバノン、東ティモール、葛飾区のみんかふえから生配信でイベントを開催しました。

レバノン集会では90人の定員が数日で満員となり、東ティモールのエゴ・レモスライブには300名近くが集まりました。

これまで関東を対象に実施していたイベントの集客対象が世界規模となったことで、地方からも海外からも大勢参加していただきました。

普段、帰国時にしかできなかった現地駐在員による報告会が、どこにいても気軽に開催できる環境となり、現地との距離がぐっと縮まりました。



皆さまのご支援によって支えられています

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

年会費

会 員：10,000円
賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地を指定してご寄付いただくこともできます。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることが出来ます。

●クレジットカードでの寄付(Webサイトより)

<https://www.parcic.org/donation/donate/>

●郵便局からの寄付

郵便振替口座：00140-8-536957

口座名義：パルシック

●銀行からの寄付

三井住友銀行 神田支店(普) 2384136

口座名義：特定非営利活動法人パルシック



クレジットカード
寄付 QRコード

※銀行からお振り込みの際は、
ご住所とお名前をご一報ください。